



10月23日開催
参加者107名!

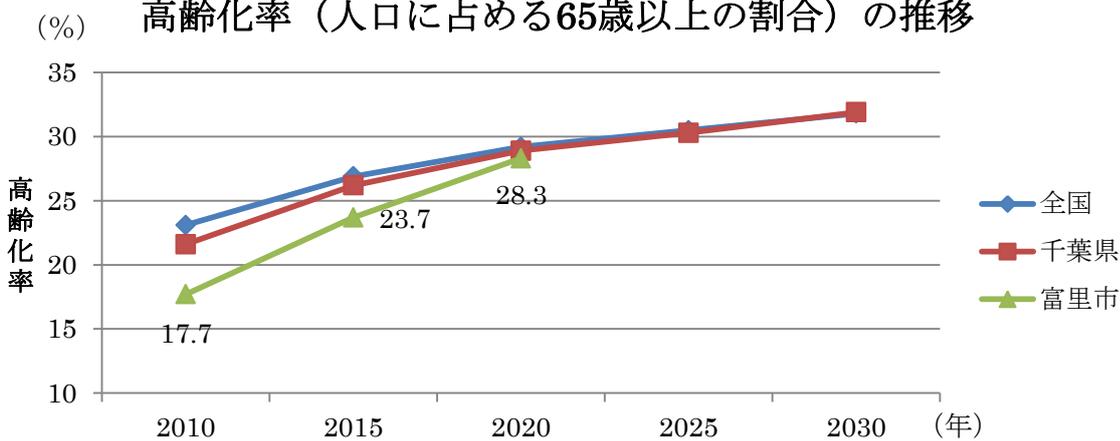
第2回
協働のまちづくり講座
「地域福祉と市民協働」

発行・問い合わせ
市民活動推進課 93-1117



第2回目のテーマは「地域福祉と市民協働（高齢者の見守りと介護予防）」ということで、雨の中、今回もたくさんの方が参加したよ。今回は、高齢者福祉課の平野さん・原さんと民生委員児童委員協議会会長・浩養地区社会福祉協議会代表の宮川さんに取り組みを発表していただいて、参加者の皆で意見交換をしたよ。

高齢化率（人口に占める65歳以上の割合）の推移



参考…国立社会保障・人口問題研究所
及び富里市総合計画より←



上図は高齢化率の推移を示した
もの。富里市は、2010年は全国・
千葉県よりも低い水準だったけど、
2020年にはほぼ同じ値になる
ことから、今後急激に高齢化が進む
ことがわかるね。市や民生委員は
どんな取り組みをしているのかな。



＜市の取り組み＞

- 生活機能チェックリストの酒付
→自身の生活機能を確認いただき、回答のない方については個別訪問により状況を確認
- 高齢者見守り緊急通報装置の設置
→心身に不安のある一人暮らしの高齢者、寝たきりの方等を抱えている高齢者のみの世帯を対象に、看護師等が24時間待機している「受信センター」に通報できる電話機・ペンダント型発信機を貸与
- 独居高齢者等への配食サービス
→食事の用意(調理)が困難な一人暮らし高齢者及び高齢者世帯に対し、定期的に給食(弁当)を配達して高齢者の食生活(低栄養)の改善を図るとともに安否確認(見守り)も実施
- 高齢者が地域で元気に暮らせるために
→要支援・要介護になってしまう可能性のある高齢者を対象に、筋力アップ・栄養改善・口腔機能向上等を目的とした介護予防教室を開催
また、元気な高齢者に対しての介護予防教室も開催

※これらは取り組みの一例です

＜民生委員の取り組み＞

- 高齢者の見守りとして個別訪問(市と連携)
→同時に悪徳商社に気を付けるよう促す
 - 各種講習の受講
→救命講習・自殺対策講習・認知症講習等、見守り活動に必要なスキルを身に付ける
 - 各種イベントでの活動
→社会を明るくする運動、福祉まつりなど
 - 地区社会福祉協議会での活動
→高齢者のための地域サロン、子育て支援、異世代間交流(地域の人と人をつなぐ)など
- ※これらの取り組みのほか、様々な福祉分野で活動しています



しかし、現状として・・・

- 高齢者は一人ひとり違う生活を送っており、何を望んでいるかは違うため、行政が一括で見守るのは困難である→例えば、「話し相手がない」という悩みに対応できない
- 民生委員も担当の地区を毎日一人で訪問するには限界がある(地区によっては何百件と回らなければならない)し、民生委員の世話になることが恥だと感じる高齢者もあり、地域から閉ざしてしまう人もいる
→孤独死の問題に繋がる可能性があり、民生委員としては担当地区の高齢者が亡くなると精神的負担が大きい(責任を感じてしまう)

高齢者の見守りは限界に達している！
(多岐にわたるニーズに対応できていない)
地域での支えあい・見守りが必要！！



増え続ける高齢者に対して地域で支えていかなければ支えきれない状況なんだね。区長会の話し合いでも自治会の高齢傾斜の問題となっていて、「自分の地区くらいは自分で見守るつもりでなければならぬ」といった意見が区長さんから挙げられていたよ。自治会とうまく連携できると見守りを強化できると思うんだ。地域の元気な高齢者が、支援が必要な高齢者を見守るといったのもいいかもしれないね。参加者の皆さんからは、どのような意見があったのかな。

＜参加者からの意見・提案＞

- ・高齢者見守り緊急通報装置については、利用者が減少傾向にあり、携帯電話の普及や民間業者の参入が要因とのことだが、ほかにも原因があると思う。通報があると協力員（民生委員が協力者となっている場合もある）も大変な面もあるが、状況把握のために非常に助かる。見守りには有効な事業であるため、もう少し申請基準を緩和して利用しやすくしてはどうか。（民生委員 男性）
- ・現在、市の緊急通報装置ではなく、民間の高齢者見守り緊急通報システムを普及させるべく活動しており、自身が加入する自治会で独自に購入し、希望する家庭に機器を設置している。（自治会 男性）
- ・どこに誰が住んでいるか把握している郵便配達員等の事業者に見守りを担ってもらってはどうか。また、高齢者への配食サービスについて企業を導入したり、給食センターの委託業者に配食サービスを含めて契約して、配食と同時に見守りを行ってはどうか。（男性）
- ・事業者と協定を結ぶ場合、見守りのための協定制度を作ったことを市民に広く周知してほしい。（市民活動団体 男性）
- ・地域現場も個々に情報を保有していて、市が把握していない情報もあるはず。しかし、市民同士・事業者が保有する情報と市・民生委員が保有する情報が繋がっていない。情報はあがるがどのように活動につなげていくかが難しく、活動者の人材発掘とリーダーの養成が課題だと思う。リーダー養成に詳しい中村さんにアドバイスを頂きたい。（市民活動団体 男性）
- ・独居高齢者は孤独を抱えており、仲間を作りたいと思っている。自分も仲間を作りたいと思っているが、高齢者が参加できる機会などの情報を集めることが難しい。市として、高齢者の仲間づくりを支援してほしい。
- ・シルバークラブに加入しているが、70・80代も多数いるため、地区で高齢者が接する機会としては、老人クラブが一番だと思う。しかし、高齢者へのシルバークラブの活動の周知に苦慮しているのが現状である。（シルバークラブ 男性）
- ・近年、自治会加入者が少なくなってきたが、隣同士を見守るシステム事例について前回関谷先生から紹介があったが、それについて教えてほしい。（市民活動団体 女性）



【参加者の発言の様子】



たくさんの意見が出てきたね。それだけ参加者の皆さんも高齢者の見守りについて深刻に捉えているということだね。特に事業者に見守りを担ってもらうというのはすごく良いアイデアだと思う。協働は市民と行政だけの連携ではなく、地域の皆で取り組むべきものだからね。

それでは、関谷先生と中村さんからアドバイスを聞いて、今後つなげていこう。

まず、参加者の方から質問のあった隣同士を見守るシステムについてだけれど、東京都の立川市のある集合住宅では、隣戸所で見守ることを自分たちでルール化しているんだ。とみちゃんか言うように富里市の自治会でも合意のもとお互いを見守る体制ができるというね。

高齢者と地域をつなぐには網の目のような環境を作っていく必要があって、誰かがやるだろうと他人事のように捉えていては、もれ落ちる人が出てきてしまう。高齢者が地域に入りやすいように入口をたくさん作ることが大切だね。

高齢者の見守りについて高齢者福祉課と宮川さんに取り組みを発表していただいたけれど、地区社協の取り組みで異世代間交流を実践しているのは素晴らしい。参加者に取り組みを理解していただけたことは協働の第一歩だけれど、それに加えて発表だけで終わらず、「できていないこと、足りないこと」を行政の側も市民の側も率直に伝え合い、それを補うために何かができるか一緒に考えることができる「共通の土俵」が作れるというね。



リーダーの育成について質問あったけど、私は「地域のつなぎ役」を輩出できるように、顔の見える関係づくりをしているよ。例えば、商店会の会議に地域の人を招いて、地域と商店会をつないだり、次の世代を担う人（2代目）に活動する場を作ったりしているよ。これも関谷先生のいう「共通の土俵」の一つの形だね。



「共通の土俵」かあ〜、この講座が一つの土俵になればいいな。最後に高齢者福祉課から発表のあった地域の見守り体制を充実させるための気づきのポイントをまとめてみたよ。実践してみてね。それから次回の講座のお知らせだよ。次回のテーマは「子育て・教育と市民協働」ということで、この分野も課題が多そうだね。市民活動推進課は男女共同参画も推進しているので、子育て中のパパさんにも参加してもらいたいな。次回も皆で一緒に考えよう！

＜地域で見守り体制づくりのための気づき＞

- ひょっとして
窓が閉まっている、郵便受けがいっぱいなど
→おうちの中で倒れているかも!?
- もしかして
暑い日に長時間外出している、道路で足取りがおぼつかないなど
→事故が起るかも!?
- 虐待ではないか
家の中から怒鳴り声、あざや傷があるのに理由をはっきり言わないなど
→ただし、高齢者を支える家族への配慮も必要

	日ごと	テーマ
第3回	11/27(水)	子育て・教育と市民協働 「放課後の子育て支援 及び地域における青少年の健全育成」

託児有ります！（要予約）

**11/26PM3:00までに市民活動推進課へお申し込みください
TEL(93-1117)**

